

# 校長通信

## Morifun

### < 体育祭～コロナと共生！盛附の団結力Ⅲ～ >

考查明けの6月20日、21日の2日間体育祭が行われました。今年度、初日は体育館で開会式を行い、室内競技を実施。2日目は運動公園でリレーや借り物競争そしてアメ食い競争も実施。メインイベントのクラス対抗綱引きが全クラス参加してサッカー場で行われました。午後からはサッカーそして体育館でバレー・バスケの準決・決勝が繰り広げられ、充実の2日間となりました。

#### 令和4年度体育祭試合結果

##### 男子

【サッカー】①3-1 ②2-1

【バレーボール】①3-3 ②3-5

【バスケットボール】①3-3B ②3-2

【バドミントン】①3-3 ②3-2

【卓球】①2-3 ②3-2

##### 女子

【バレーボール】①3-4 ②2-2

【バスケットボール】①2-4A ②1-2

【バドミントン】①3-2 ②2-1

【卓球】①1-4 ②1-5

全体競技【綱引き】①3-3 ②3-4

【クラスTシャツグッドデザイン賞】 1-4



### < 7/5全校礼拝より >

#### 新約聖書 マルコによる福音書 8章 36節～37節

6月23日は沖縄慰霊の日でした。この日は沖縄戦で亡くなった方々を悼し、平和への祈りをする日です。沖縄では休日となっており、特別な日です。

沖縄戦は太平洋戦争末期の1945年3月末に始まり、激しい地上戦の末、6月23日に組織的戦闘が終結しました。県の人口の4人に1人にあたる12万人もの人が亡くなったと言われています。さらに日本とアメリカの軍人が合わせて20万人が亡くなったということです。

今年はお沖縄が日本に復帰して50年の年でもあります。しかし50年が経過した現在も、日本の米軍専用施設面積の約70.3%が沖縄に集中しているという現実があります。

今日は皆さんに沖縄の言葉を紹介します。《命(ぬち) どう宝》という言葉です。命こそ宝という意味で、沖縄の平和運動において大切にされてきた言葉です。沖縄の基地反対運動の先頭に立ってきた阿波根昌鴻(あはごんしょうご)さんという方がいます。阿波根さんはたった一人の子供であった息子さんを沖縄戦で亡くされ、連れ合いのご実家では家族のほとんどを失いました。この阿波根さんが90歳の時に書かれた『命こそ宝 沖縄反戦の心』という本があり、この中に次のような言葉があります。《戦争中、わしらはあまりにも命を粗末に考えておった。二度と戦争をおこなわせないためには、何よりも命を大事にすることである。戦後になって、非常に反省しました》愛する息子さんを沖縄戦で亡くされたわけが

が、同時に、自分自身にも責任を感じておられたようです。

戦争中は、「命は鴻毛より軽し」という考え方が浸透していました。「鴻毛」とは鳥の羽毛のことです。命は羽毛よりも軽いもの、だから命を捨てることは少しも惜しくないのだ、と。「命こそ宝」とは反対の言葉です。しかし当時は、そのように国のために命を差し出すことが推奨されていた。そのような中、自分達自身が、命を粗末にする考えに囚われていたのではないかと阿波根さんは振り返っています。

《伊江島にはアハシヤガマという大きな洞窟があります。ここでは、150人の島民が集団自決した。また、島でただ一カ所真水が出る、湧出(わじー)という、いまでは景色のいい観光地になっているところがありますが、その断崖からたくさんの人たちが身を投げた。日本軍守備隊は玉砕を命じて降伏を許さなかったから、日本軍に殺された人たちもおりますが、これだけの人たちが死んだのは、わしら自身が命を粗末にする考えから抜け出せなかったからである》

戦後、その反省を踏まえ、阿波根さんは命の尊さ、《命どう宝》を訴え続けてゆきました。《「命どう宝」、これは実に大事なことばである。沖縄戦というこの世の地獄を経験し、そして敗戦後の半世紀、ずっと基地反対闘争を戦ってきて、もう90歳になるわしが、生涯をかけて伝えたいことばも、またこれであります》

この《命どう宝》と共通する言葉が、聖書の中にもあります。マルコによる福音書8章36節～37節です。《人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失ったら、何の得があろうか。自分の命を買い戻すのに、どんな代価を支払えようか。》たとえ全世界を手に入れても、自分の命を失っては何にもならない。命こそが何よりも大切なものであることを伝えるイエス・キリストの言葉です。

一人ひとりの命は、ただ一つの命です。かけがえのない命です。「かけがえのない」とは「替わりがきかない」ということです。私たち一人ひとりの命は替わりがきか

ないものであり、だからこそ大切なものです。

私たちの近くに遠くに、今も、かけがえのない命が軽んじられている現実があります。ウクライナでは悲惨な戦争が続けられています。沖縄の戦争の記憶を受け継ぐとともに、「命こそ宝」であることを今こそ一緒に心に刻みたいと思います。(花巻教会牧師・鈴木道也先生)

## <部活動を振り返って②>

前回に引き続いての企画ですが、今回は剣道部の他に、まだまだ引退しない部の主将からのメッセージが中心です。夏の高校野球大会もいよいよ始まりました。二連覇なるか。先の東北大会でも男子団体第3位と活躍を見せてくれた柔道部は団体戦男子と個人戦(男子5・女子1)で、陸上部も天瀬君が300m障害でインターハイ(本校陸上部では初の快挙です)に臨みます。さらに陸上部は駅伝、そしてサッカー一部も選手権を控えています。

Go for it!

質問内容は以下の通りです。

- 1 高総体を振り返って
- 2 部活動を振り返って
- 3 後輩へ一言

### 剣道部 3年5組 佐々木彩日

- 1 参加できませんでした。
- 2 様々な活動との両立が難しく、先生には大変迷惑をかけましたが、心身共に成長することができました。
- 3 心残りがなく、ケガをせずに頑張ってください。

### 野球部 3年3組 中沢舟汰

- 1 春の大会を振り返って結果は準優勝でした。決勝では花巻東高校さんに大差で負けてしまい、自分達の力がまだまだ足りないと感じた大会でした。
- 2 (夏に向けて)春の大会で課題が出たので夏までに無くして、花巻東高校さんに勝って必ず二連覇します。
- 3 一瞬懸命に頑張ってください。

### 柔道部(男子) 3年1組 佐藤真将

- 1 目標としていた個人全階級制覇には届かなかったが、5階級取れたので良かった。次の全国に向けて稽古に励

んでいく。

- 2 選手としては実質2年と少しという短い期間でしたが、得たものはとても大きいと思います。自分は試合で思うような結果が出せず、柔道面で成長したかと言われると分からないのですが、人間性という部分では、キャプテンとして人一倍成長できたのではないかと思います。法領田先生や見上先生をはじめとするOB、OGの方々、父母の方々など、ご支援やご指導ありがとうございました。
- 3 最後の高総体まであとまだまだあるから大丈夫と思っている人もいかもしれませんが、あっという間です。何もなくても大会は来ます。それなら少しでも頑張ってみた方が良かったなと今思います。後悔しないように一日一日を大切に頑張ってください。応援しています。

### 柔道部(女子) 3年1組 山上愛華

- 1 個人、チーム共に3位という結果に終わりましたが、今の私達も持っている全力を尽くせたいと思います。
- 2 今まで厳しい練習をしてきて、何度も心が折れそうになりましたが、仲間と声をかけ合いながら乗り越えることができました。
- 3 今年は初めての団体戦で3位という結果だったので、来年からはみんなで声をかけ合いチームを盛り上げながら、男女ともに優勝できるように頑張ってください。

### 陸上部 3年1組 天籟海斗

- 1 一人一人が全力を出し切ったレースだった。だが、悔し涙を流す選手も見られ、日々の練習から本気で取り組んでいたことが分かった。逆に大会で良い結果が出た人も、現状に満足せず、上を目指して日々練習に励んでほしい。
- 2 まだ終わっていません。
- 3 先輩達の悔し涙を見たと思います。自分達自身が笑って満足して引退できるよう、今の辛い練習を乗り越えていきましょう。3年間はあっという間に過ぎていきます。後悔のないよう残りの引退までの時間を、一緒に頑張っていきましょう。よろしくお祈りします。

### サッカー一部 3年1組 大江晃太郎

- 1 コロナで思うように部活動ができず心残りがありますが、選手権に向けて頑張ります。

- 2 高総体で結果が出せなかったので、選手権頑張ります。

- 3 あと半年一緒に頑張らしましょう。

## <今月お勧めの一冊>

私が校長に赴任した2019年度から朝読書を開始しました。今年で4年目となりますが、皆さんに本を選ぶきっかけになるようにと、このコーナーを始めましたが、今年度は初めてとなります。実は、今年は専門の英語関係や教育系の本を読むことが多く、いまいち皆さんにお勧めの一冊が浮かばないのですが、古くからの友人(千葉県時代の同僚で、私が岩手に戻ると同時に彼も新潟に戻った高校の国語教師)から是非と紹介されて読んだのが、ルシア・ベルリンの『掃除婦のための手引書』という作品(講談社文庫)でした。奇抜なタイトルですが、この作家は「アメリカ文学界最後の秘密」と呼ばれていて、彼女の死後10年を経てアメリカで作品が刊行されて一躍ベストセラーになったもので、これは彼女の短編集になります。私は読み始めてすぐにレイモンド・カーヴァーという作家(彼も故人で村上春樹が翻訳をしています)に似ているな、と思いました。実は彼に影響を与えたのがこのルシア・ベルリンの方だったというのです。好き嫌いがあるかもしれませんが(小説というのは所詮そんなものです)が、身につまされるというか、ちょっと目をそむけたい場面にも出くわします。それでも読むのを止められない。どちらかという悲しくなると、ふと我に返り、自分の身の回りを振り返ってしまう、そんな感じです。本の表紙の彼女は魅力的ですが、読んでいくと、彼女自身、数奇な人生を歩んだということが伝わってきます。死んでから評価されるというのはどんな感じなのでしょう。この夏の忘れられない一冊となりました。

A Manual for  
Cleaning Women  
Lucia Berlin

